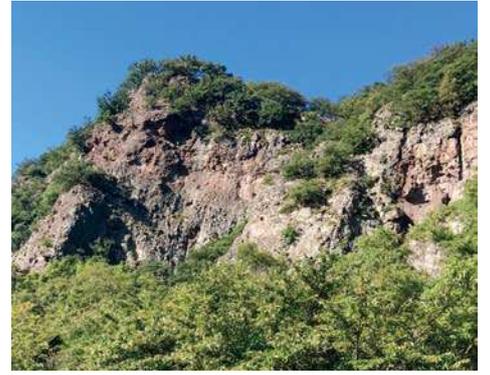


# しまいろ

SHIMAIRO

No. **6**  
2023 spring

小豆島の  
高校生たちがつくる  
小豆島のための  
フリーペーパー



# おさんぽ BINGO® -小豆島-

海洋デザイン教育のみなとラボとクリエイティブチームブンケンによるプロジェクトから生まれた、小豆島ならではの魅力を再発見し、島の自然や文化に目を向けるきっかけとなるツール。

この取り組みは、瀬戸内4県と日本財団が推進する海洋ごみ対策プロジェクト「瀬戸内オーシャンズX」の一環です。小豆島の高校生が、海をはじめとする小豆島の自然の豊かさや歴史・文化に気づき、その関わり方を考えるきっかけになることを目的としています。

About





「おさんぽBINGO®-小豆島-」のアイコンは、小豆島中央高校の生徒が考案しています。観光スポットに限らず、風景や生き物、季節限定で見られるものなど、様々な角度から島の魅力が見えるよう工夫しました。付属のガイドブックはビンゴアイコンと対応していて、生徒一人ひとりが調べた説明と、自分たちで描いたイラストが掲載されています。通常のガイドブックの役割に加え、島の魅力をゲーム感覚で発見することができるアイテムです。

How to use

01



ビンゴをもっておさんぽ

02



アイコンにあるものを探す

03



小豆島の魅力を再発見

CHECK!



「おさんぽBINGO®-小豆島-」をお店で販売する際に商品を並べる入れ物（仕器：じゅうぎ）も、小豆島中央高校の生徒がすべて手作りしました。ビンゴのアイコンにあるものをもとに一つ一つテーマが異なり、様々な模様となっています。小豆島の魅力や販売する場所をイメージしたデザインになっているので、ビンゴを楽しみつつ、その入れ物は何をイメージして描かれたものかにも注目してほしいです！

## 自分のまちの「おさんぽBINGO®」をつくろうプロジェクト 小豆島

「海と人とを学びでつなぐ」をテーマに、海洋教育の実践的プログラムを提供してきたみなとラボの教育的観点と、広告制作会社サン・アドによる文具ブランド「ブンケン」とのコラボレーションから実現したプロジェクトです。自分たちの地域の自然環境や文化、産業、暮らしなどを探究するワークショップを通して見出したまちの魅力を、地域の人たちを巻き込み、こども達自身が発信していきます。



### みなとラボ (3710Lab)

多様な専門家たちと一緒に、学校や地域で海の魅力を深め、人の考えを深め、学びの在り方を深める海洋教育のプログラムを実施。「海と人とを学びでつなぐ」そんな時間と場を提供してくれます。今回の活動では、小豆島の自然の豊かさに気づかせてくれました。

<https://3710lab.com>

### ブンケン

「ブンケン」は、文具研究会を略したネーミング。「いつものお出かけを、もっと楽しいお出かけに」をコンセプトに生まれた移動式ビンゴゲーム「おさんぽBINGO®」を開発したチーム。

普段気がつかなかった季節や自然の変化を見つけることで、豊かな時間が育まれる商品として今各方面で話題となっています。

※ブンケンは、TV・CMやブランディング、コンテンツなどを制作する広告制作会社（株）サン・アドによる文具ブランドです。

<https://sun-ad.co.jp>

### 高校生より

この商品制作するにあたって、みなとラボさんやサン・アドさん、おさんぽBINGO®のイラストを描いている丸山素直さん、NPO法人トティエさんなど、たくさんの方との交流ができました。プロの視点のアドバイスをいただくことで、私たちの力だけではできない素敵なものが出来上がりました。

また、改めて小豆島の魅力を考えるきっかけにもなりました。ずっと小豆島で生活してきた私たちにとっては当たり前のもので、小豆島の外から見ると珍しかったり、魅力的なものであったりすることを知りました。今まで気づかなかった小豆島の魅力を再認識できたと思います。

観光客の方だけでなく、地元の方にも楽しんでいただけるものになっていると思います。小豆島の魅力を見つけて行きましょう！



## みんなでアイコンを考案！

アイコンを決めるとき、まずは小豆島で発見できるものを、様々な視点からみんなで集めました。「小豆島と言えばこれでしょ!」という有名なものから、意識しないと気づけないものまであります。私のお気に入りには、嗅覚をつかって見つける醤油やごま油の香りのアイコンです。その後に、自分の担当アイコンを決めました。

担当するアイコンについて詳しく調べる中で、身近すぎて気づけなかった島のよさを、客観的に見ることができました。島のよさを再確認できた嬉しさと、話し合いを重ねるたびに出来上がっていく過程の楽しさを感じました。「おさんぽBINGO®」を手にする人の視点になってアイコンを考えることは難しかったけれど、みんなで協力して使ってくれた人が笑顔になるものをつくることができましたと思います！



「おさんぽBINGO® -小豆島-」をより多くの人に手にとってもらうため、販売用の仕器も工夫しました。一人ひとりがキャッチコピーを考え、高校生らしい作品に仕上がっています。目に留まりやすい配色や、商品のコンセプトが伝わりやすいデザインなど、様々な視点で考えました。普段の学校生活では考えたことのなかったことが多く苦戦もしましたが、満足のいく仕上がりになったと思います。

それぞれが特に伝えたい島の魅力や商品の魅力が様々で、デザインに使われる色も柄も言葉も、個性豊かなものになりました。かわいらしいもの、不思議な模様のもの、シンプルなもの…どの仕器にも違った魅力を感じます。アイデアがなかなか出なかったり、紙の貼り方が難しかったりして困っている人がいたときに、手伝ってあげている人もいました。作成を通して、メンバーの仲も深まったと思います。



Thank you!

## 制作にご協力いただいた人たちの声

「ブンケン」  
瀬古 泰加さん



「このアイコンは入れたい!ここを見て欲しい!」と厳選した30個のアイコン。なくなく諦めたアイコンの中にもユニークなものもまだあり、みんなの島愛、島の魅力がよく伝わりました。私もとても楽しかったです。



明るい教室から見える穏やかで綺麗な瀬戸内海と、だんだん打ち解けていった皆さんとの思い出が重なって、私にとって特別なBINGOになりました。知らなかった小豆島の魅力をたくさん教えてもらいました。ありがとう。

丸山 素直さん



「NPO法人トテイエ」  
大塚 一歩さん



「みなとラボさんと一緒に何かやりたい!」とメッセージを送ってから、あれよあれよという間に「おさんぽBINGO®」をやることが決まり、第一線で活躍されているサン・アドさんのブンケンチームも加わり、と濃厚な製作期間でした。商品は我が子のように…ですが、頑張ってる売らないとだね!



みなさんがどのような自然環境や文化の中で生活しているのか。改めて考え、探り、手を動かすことで、発見してってくれたと思います。何より、一人ひとりがすぐに魅力を思い描けていて、小豆島は豊かな場所なのだと思いました。教室の窓からみえる海もそのひとつですね。これをきっかけに、海に囲まれた土地ならではの気候風土や暮らしに、眼を向けていってほしいです。

「みなとラボ」  
田口 康大さん



### 販売場所

ご協力ありがとうございます!



- 池田港ターミナル売店
- 池田港発着フェリー
- オーキドホテル小豆島
- オリーブ公園
- オリーブナビ
- 寒霞渓
- TUG BOOKS
- 土庄港観光センター
- ドッグサロン シェリル
- 二十四の瞳映画村
- カフェ ラ・モーヴ



## 自分の知っている人たちと安定した生活

### なぜ看護師になろうと思ったか

島内に准看護学校があり、親に負担をかけず手に職を持つことが出来、安定した収入を得ることが出来ることや父親が糖尿病を患っており、自宅でインスリン注射や内服治療を行っている様子を身近に見て、食事制限などに携わっていた事や自身も高校生の時に肺炎で入院した時、関わって下さった看護師さんに憧れた事などが理由。

### なぜ島内で仕事をしようと思ったのか

父親の力になりたかった事や、島での生活に慣れており、自分の知っている人たちと一緒に安定した生活ができる小豆島で働くことに。また、カヤックやサップのインストラクターをしているため、海のないところで働くのは避けたいという考えもありました。沖縄に行くことも考えた時期もありましたが、やはり



和田 恵美さん

### これまでの経歴

小豆島で生まれ小豆島で暮らし、高校卒業後は働きながら小豆島町立准看護学院に通って、准看護学校卒業後は牟礼病院に就職。その後、結婚し子供ができたが、牟礼病院には託児所がなかったため託児所のある小豆島病院へ移った。その頃、准看護師よりも正看護師の必要性が高くなり、高松市医師会で正看護師の資格をとった。小豆島病院で20年ほど勤務後、自分の体と向き合いながら今いるサンシャインに移った。

島が好きだから島内で仕事をしています。

### 島内で看護師をするメリット

- ・実家で住むことで生活費が抑えられ、家事も独りで済んで良い事。
- ・お金面での不安が小さくなる。
- ・ある程度のお給料をもらえる。

### どの大学にいったのか、また、その学校を選んだ理由

小豆島に准看護学校があったというのと、その学校の口コミや学費、卒業生の就職先などを見て高校卒業後は小豆島町立准看護学院へ進学。正看護師の必要性が高くなり正看護師の資格をとるため、就職後は高松市医師会へ行行った。

## 経験を沢山積むと、間違いなく今後の役に立つ

### なぜ看護師になろうと思ったか

高校2年生までおじいちゃんおばあちゃんが好んで介護士になろうと思っていたけど、進学の為に自分の将来をもう一度しっかり考え、調べた時に、看護師や助産師など同じような系統の職業が出てきた。看護師は興味もなかったけど、調べていくうちにいいなと思いはじめた。周囲の大人達も介護士になるなら看護師になったら？という促しがあった、決意を決めた。

介護士は日常生活のお世話がメインだが、看護師は医療行為ができ、より専門性が高く、経済面でも安定するという意見もあり、そこから看護師や助産師の道を選ぶようになった。

### なぜ島外で仕事をしようと思ったのか

看護師も助産師も若いうちは経験を積まないと話にならないと思ったから。



高岸 佳以さん

### これまでの経歴

小豆島高校を卒業し、香川県立保健医療大学の看護学部看護学科に進学。4年間で看護師の国家資格を取り卒業。助産師になるため、岡山の山陽学園大学の助産学専攻科に1年間行き、助産師の国家資格に合格し、卒業。助産師の国家資格を取り、香川に帰ってきた。香川県立中央病院の産科小児科病棟で働いている。

件数も症例も多く、より経験が積めるのは小豆島より高松の病院だと思って、高松の病院を選んだ。

### 島外で看護師をするメリット

今働いている県立中央病院はお産で言うと、正常分娩が多い。日赤や香川大病院はハイリスクな分娩があり、より専門性が求められる。高岸さんは若いうちは正常分娩をよりたくさん経験したいという思いがあり、香川県立中央病院を選んだ。

島より圧倒的に出産数が多く症例も多いので、経験になると思った。若い時に経験を沢山積むと、今後の役にたつことは間違いないと思い島外で看護師をする事にした。

### どの大学に行ったのか。

その学校を選んだ理由  
元々関西の四年制大学を考えていて、受験もした。

私立は学費が高く公立は学費が私立より安かったという理由や、推薦入試の定員が多く、大学全体の半分は県内の人が多く友達や先輩がいたりしやすいという理由から香川県立保健医療大学を選んだ。



## 若い世代に何か残せる仕事を

どうして島で家庭教師をしようと思ったのですか？

中学・高校生を対象に勉強をサポートする仕事をしていきますが、私の生徒たちは、みんな素直で可愛くて大好きです♡この仕事を選んだのは、自由奔放に生きてきた20代を経て、30代では若い世代に何か残せる仕事に就きたいと思うようになったからです。

島の良い所、悪い所を教えてください！

島の良いところは、自然豊かで温暖な気候で暮らしやすく、魚や野菜など食が美味しい所です。島の悪いところは、田舎特有の噂が多くに広まる所です。

子育てはしやすいですか？

子育てはしやすいです。海と山が近くにあり、遊ぶ場所に困りません。町の子育



加納 麻衣さん

職業：島で家庭教師  
私たちのミカタ

### 思ったこと・感想

麻衣さんの「若い世代に何か残せる仕事に就きたい。」という思いが素敵だなと感じました。わたしはまだ将来やりたいこと、就きたい仕事など決まっていませんが、麻衣さんとの出会いを大切に、今後の自分の人生に生かして行けたらいいと思います。



て支援もありがたく、小さい子どもを育てるのに小豆島を選んで良かったなあと思っています。

今後も島で暮らしたいと思いますか？

これからは島で暮らしたいです！でも、娘の成長に合わせて、都会や違う場所も知っておいた方が良くないと考えるようになったら引越すことも視野に入れています。

## 様々な目線で物事を見ることが

教員になった理由は？

地理という大好きな学問に関わる仕事があったからからです。

教員以外の仕事をしていてよかったことは？

教育現場の当たり前が社会では特殊であることに気づくことができること。そして、教員でありながら様々な目線で学校を見ることができるところです。教員を目指している人は教育学部を出ていることが多いです。だから、教員以外の目線で教育現場を見ることが難しくなってきました。県庁で政策の仕事をしていた時、先生や生徒と交流があった、その時もっとこうしたら良くなるのではないかと考えることができました。

いろいろな仕事をしている方がいい？

日本では、最初に就職した職場で働き続けることや、終身雇用が良いものとされている傾向にあります。そのため、転職を繰り返

返していると素行が悪いのではないかと疑われることもあるため、現在の日本に関して言うところのいろいろな仕事をするのがいいとも限らないです。しかし、一つの職場で働いていてもいろいろな部署や業務があり、その中で経験することもできると思います。さまざまな経験を積むことは、自分が困った時に冷静かつ臨機応変に対応することができるようになっていくと思います。

進路について迷っているのですか？

大学は職業訓練学校ではなく、自分の興味がある分野の研究をするための場所です。学部に行ったらと言ってそれに沿った職業につくわけではありません。だから、やりたいことをやりましょう。そして、悩むことが多いなら同じ学部を選ぶといいと思います。就職については大学に入ってから、決めるので全然遅くありません。



佐伯先生

### 経歴

- 2014年4月 一般行政事務(香川県庁)
- 2017年3月
- 2017年4月 地理の高校教員(高松商業)
- 2020年4月
- 2020年4月 国立大学職員(神戸大学)
- 2022年3月
- 2022年4月 地理の高校教員(小豆島中央)
- 現在

## 常に今を楽しむ時間が大切

この仕事を小豆島でやろうと思ったきっかけは？

最初から独立することを目標としてこの業界に入りました。コロナ禍をきっかけに仕事の色々なことがオンラインになったため、環境の良い場所への移住を考える中で、小豆島の豊かな自然に惹かれて移住を決意しました。

最終的に目指すところは？

今は一人でデザインの仕事をしていますが、いつか同じような仕事をしている人とチームを組んで仕事をしてみたいです。そして、オンラインで完結できることが増えた今だからこそ人と人が顔を合わせて対話できるつながりが大切だと思います。だから、島内でそのような自営業者のコミュニティ



さかい みさきさん

職業：フリーランスのデザイナー/イラストレーター  
独立してから3年半くらいの頃大阪から小豆島に移住。

最後にこれだけは伝えたいこと！

私は、何事も始めるに遅いことはないと考えています。全ての経験が自分を形作るもので、どんな経験も、逆に何もしないような時間も無駄にはなりません！常に今を楽しむ気持ちが大切だと痛感しています。これからもこの気持ちで、小豆島生活を楽しんでいきます！



ティヤ、スムーズに人と繋がる場所ができればいいなと思います！

## 島の魅力を次の世代に残していきたい

今までの経歴十島に移住したきっかけ

東京で住んでいた大塚一歩さんは、2007年にインド、ネパール、タイなどに行き、現地の人や文化に触れた。そこでは、みんなの表情が幸せそうという印象が強くあった。それに対して、東京は表情の暗い人やしんどそうな人が多いように見えた。その頃から「このまま東京で住んでいて良いのか」と疑問を抱くように。2011年に東日本大震災を実際に東京で体感し、結婚を控えていた大塚さんは、移住を決意した。2010年に瀬戸内国際芸術祭に行ったことがあり、この時の瀬戸内の印象が良かったため移住先の候補として小豆島が挙がる。小豆島のことを調べていくうちに、島の歴史や産業、美しい自然などを知って「すごい島だな」と思った。そして、深く悩むこともなく漠然とした思いで小豆島へ移住をした。



大塚 一歩さん



### 小豆島の魅力

- ・歴史
- ・産業（オリーブ、そうめん、醤油など）
- ・海、山に囲まれた美しい自然

### 今の仕事について

大塚さんは、島の歴史、産業、美しい自然を魅力的に感じ、これを次の世代に残していきたいという思いで移住促進のお仕事をする。

移住促進とは、移住する人の人生の転機を相談を受けるといふ、人の人生の帰路に立ち会う仕事であって、それぞれの向き不向きも考えつつ仕事をしている。島民として、移住を考えている方にぜひ小豆島に来て欲しいという思いは強くあるが、小豆島の良いところも不便なところも全てを伝えて、移住者の希望を最優先して相談に乗っている。

## 無意識のうちに手放してしまったことを取り戻していきたい

小豆島で仕事をしようとおもったきっかけは？

名古屋で子育てをしていたのですが、自然の多い場所で子育てしたいなと思って移住を決意しました。初めは高松で仕事に復帰しましたが、育児取得後に降格することに。子どもを預けてまで仕事をするからには、仕事もちゃんとしたいという思いがあり、会社員を辞める決意をし、個人事業主として独立、翌年に法人化しました。できることをやっていたという思いでやってきて、「しまみら」もこの時に共同代表で立ち上げました！

今は、高校の探究の時間に入らせてもらったり、小豆島の企業さんのお手伝いをしたり。子ども向け体験施設の「ワンダホービとやま」も立ち上げました。きっかけは、島暮らしをする中で、白菜を近所の方からいただいたので「汚れた部分を畑に放っておいて」と言われたのにゴミと同じに思ってしまった捨てられなくて。野菜は有機物で土に還るものと循環を勉強したはずなのに、知識が本質的な学びになっていなかった。今まで自分がしてきた学びってなん



城石 果純さん

職業：  
株式会社DaRETO代表  
文部科学省委託、  
21世紀型専門人材育成事業  
コーディネーター



だったんだろう」と思うようになり、子どもはただ遊んでいるだけだけど、実は感覚的な学びとなるような場をつくりたいと思ってオープンしました。

いろんなことをする方がいいのかそれともひとつのことを極めていったほうがいいのか？

私は、全ての点が線になる時が必ず来るので、どんな経験も必要だと思えます。だから、いろんなことをするのも絶対無駄にならないし、ひとつの仕事に極めていくのも素晴らしいことだと思います。すべての仕事を一生懸命していたらそれは必ず線になって、また

新しいことに生かされます。私自身はひとつを極めていくよりも、いろいろとやっていくうちになんとなく形にしていく方が自分に合っていました。結局、人それぞれ合う合わないはあるので、自分に合う方法を見つけることが大切だと思います。

### 最終的に目指すところは？

やりたいことをやっていって、最終的にどうなるかは分かりません。ですが、やりたいことがまだまだ沢山あるので、それはやっていきたいと思っています。また、勝手に自分の中でこれは無理だと思い込んで諦めてきたこともありまます。そんな無意識のうちに手放してしまったことを取り戻していきたいです。

### 最後にこれだけは伝えたいこと！

まずは自分が何者なのか、何が好きで何が心地よいかを明確にすること。その上で、自分で自分の道を歩んでいくこと。間違えることもあると思う。それでも何度でも選択を積み重ね、自分の人生を生きてください。いつも応援しています！

移住に興味のある方は参考に！



移住ガイドブック



## 島の新たな魅力発見

#ボルダリング @MINA.UTARI



# 島の魅力・産業 *Team*

届かない場所に何度も挑戦し、それができた時はとても達成感がありました。渡利さんの話を通して、諦めずにチャレンジする事、熱中できる好きな事を自分で見つけてそれを続ける事の大切さも教えてもらいました!

2年3組 林 蔵人

初めてのボルダリングを通して、登りきる事の楽しさや嬉しさ、そして渡利さんの話を通して、好きな事を貫き通す大事さに気付きました。すごく充実した時間を過ごせました!楽しかったです!!

2年4組 堀川 怜聖

ビックリするくらい難しかったけど、登り切れた時の楽しさと達成感は凄かったです。今回の体験で、まだやったことがない新しいことに挑戦する大切さ、困難に立ち向かう自分の強い気持ちが知れて良かったです。

2年4組 長濱 ほまれ

できるかなという想像と、思い通りできない現実とのギャップを楽しめました。何回か登ってみて、今の自分ができること・できないことが分かり、それが闘争心となって何度もチャレンジしたい気持ちにさせてくれました。

2年3組 佐伯 貞弥

初めてボルダリングで登れるか不安だらけだったけど、どこに足を置か考えながらゴールした時は達成感があり、とても嬉しかったです。人と比べず自分と戦う事などいろんなことを学べるいい機会でした。

2年4組 藤田 実優

最初はとても簡単だったけれど、次のルートから徐々に難易度が上がり、クリアするのがなかなか大変でした。ロッククライミングとはまた違った難しさがありました。ボルダリングもとても楽しかったです。

1年1組 田村 みずき

やる前は結構行けそう...なんて思っていたのですが、実際はとても難しく失敗の連続。そこで諦めるのではなく何がダメだったのか、次はどうすれば上手くいくのかを考える、頭と体を使った面白い体験でした!

2年4組 伊藤 義朗

渡利さんに教えて貰いながら何度も挑戦するうちに1歩ずつ登っていくことが出来たことが楽しくて、嬉しかったです。誰かと競うんじゃなくて、自分の中の壁を乗り越えて行く大切さを感じました。

2年4組 大空 美優香

最初はうまく登れなかったけど、ルールや登り方を教えてもらううちに少しずつできるようになったのが嬉しい。ボルダリングは、考えながら行動する大切さを全身で実感できる面白い体験でした。

1年2組 平林 真真

登れるか不安だったけど、渡利さんが困ったときにアドバイスや声援をしてくれたので楽しかった!競争系が苦手な私としては、自分の中で『ここまで頑張ってみよう!』と目標を設定できるのが良かったです😊

2年4組 石井 詩乃



ボルダリングジム  
MINA.UTARI オーナー

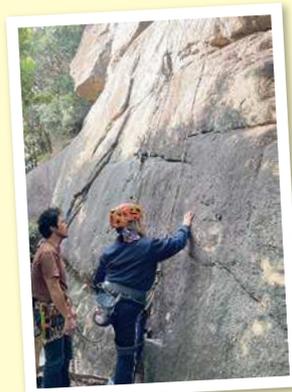
渡利 知弘さん

Interview

高校生の皆さん、今日のクライミング体験は如何でしたか? 自分の思い通りに登れた人やそうでなかった人もいますか? クリアする事は大切ですが、届かなかった一手を諦めずに挑戦する事で届くようになっただけでも大きな成長です。初めから思い通りに出来ない事は当たり前で、困難に挑戦して少しでも進む事が自信(自分を信じられる)に繋がりますし、その積み重ねが結果的に成功に変わります。皆さんの挑戦する姿はとても美しく、その姿を見せてくれてとても豊かな気持ちになりました。これから何者にも成れる皆さんです。楽しみながら、自分の『好き』に向かって挑戦していきましょう。今日はありがとうございました!

**ボルダリングに初挑戦!**  
昔から「石の島」としても有名な小豆島では、ロッククライミングができる岩場も多くあります。そんな小豆島の唯一のボルダリングジム「MINA.UTARI(ミナウタリ)」へ行ってきました!

## ロッククライミング体験も!



実際の岩に登るのはもちろん初めてなので、どういふふうに登っていくのが全く分からない状態からのスタートでした。渡利さんの事前レクチャーを受け、一番目に登ることになったのですが、見ていたのと実際に登ったのでは大違い。手の位置、足の位置を考え、四苦八苦しなりましたが、最後まで登れるのかな? と思いましたが、最初の挑戦でクリアすることができました。大変でしたけれどとても楽しかったです!

1年1組 田村 みずき

# 小豆島のきれいな景色

01

## 小豆島大観音 (しあわせ観音)



とても大きく迫力があり、最上階では展望窓から絶景を見ることができます。幸せや願い事を叶えると言われる「8つの魅力(見どころ)」があるので試してみるのもいいですね!

02

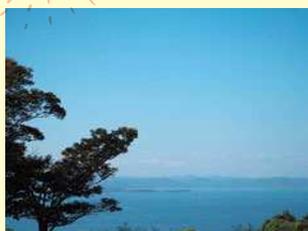
## 樹齢千年のオリーブ大樹



スペインから1万キロを旅してきたこのオリーブは、2011年の東日本大震災の翌日に小豆島へ到着。そういったことから、オリーブの花言葉でもある平和、そして平安の願いを込めてこの地に植えられています。

03

## 夕陽ヶ丘



ブランコやハンモックに乗って遊んだり、島の北側の美しい風景を一望できます。夕方は海が夕陽に照らされより美しいです!また、瀬戸内国際芸術祭2022では「はじまりの刻(三宅之功さん作)」という、大きなたまごアートも作られました。



04

## 希望の道



小豆島町の橘地区の沖にある城ヶ島は干潮の時に道ができ、エンジェルロードと同じように渡ることができます。上から見ると広い海を見渡せ、下に降りると目の前の島の迫力と、自然が作り出す風景に感動しますよ!

オリーブ大樹の奥に行くとエンジェルロードや余島、波光のきれいな海を見ることができます!

他にも!!

## 私たちが勧めるスポット

☆ 夕方になると夕陽に照らされたきれいなフェリーが見られます ☆☆



## 海を渡るフェリー

小豆島には、フェリーや高速艇などの船でしか来ることができませんが、それが魅力の一つでもあります。島に着陸したときにオリーブの木がお出迎えし島に来た実感を感じることができるでしょう。

## 島の農村歌舞伎

農村歌舞伎は肥土山と中山の2地区で地元の人々によって受け継がれています。子どもから大人までが夕方から演目を行い、暗くなって照らされた舞台は、地元の演者とともに一段と輝いてみえます。



A.中山千枚田 B.コスモス畑 C.吉田ダムにある作品 D.吉田ダム付近からの眺望 E.大坂城残石記念公園 F.富丘八幡神社からの眺望

クリエイターチーム

# 学校紹介



School introduction

しまみら  
ちゃんねる



## 文化祭



島高では毎年9月の初めに「島高祭」という文化祭が開催されます。各クラスが夏休み中に協力して出し物を完成させます！



SHIMAKOULIFE

太鼓部や、ギター部、チアなど沢山の部活の発表があります！終わった後は島フェスと言われるLIVEが行われます。



## クラスマッチ

!! nice !!



1年間に3回クラスマッチが行われます。クラスのみならず、一致団結して優勝を目指して頑張ります🔥

## 修学旅行



修学旅行は北海道へ行きます。小樽や札幌などを観光し、スキーやスノーボードなども体験できます！



# 部活動紹介



小豆島中央高校は陸上部長距離の強豪校です。毎年、全国高校駅伝やインターハイに県代表として出場しています。



女子テニス部は全国大会出場を目指して練習しています。部活動の雰囲気はよく、みんなで楽しく練習に取り組んでいます。大変で辛いメニューもありますが、それをみんなで乗り越えた時の達成感や嬉しさを辛さ以上に感じます。



# 学校の絶景スポット

学校の近くに海があるので放課後に遊びに行くことができます！映え！青春できます！



Enjoy!

島高は海に面していて、夕日が綺麗です！特に最上階の1年生の教室から見える夕日は格別に綺麗です👍

しまのみらいプロジェクト

FOLLOW Me!!



SHIMAMIRA\_2021

## 活動を終えて

# 十色 後書



あとがきといろ

島の魅力・産業 チーム 1年 <b>平林 颯真</b>	小豆島にずっといると意外とわからない新たな発見や体験をすることができました。もっと島の魅力を知り、たくさんの人に発信していきたいです。
島の魅力・産業 チーム 1年 <b>木下 颯人</b>	島の魅力・産業チームに参加し、いろいろなところに行って島の魅力を深く知ることができました。自分がしまみらで体験したことをたくさんの人に伝えていきたいです。
島の魅力・産業 チーム 1年 <b>田村 みずき</b>	島の魅力・産業チームに参加し、ボルダリングなどの体験を通して、島の魅力を深く知ることができました。小豆島の魅力をたくさんの人に伝えていきたいです。
クリエイター チーム 2年 <b>田中 碧波</b>	チームの活動を通して、小豆島に住んでいても気づかなかった沢山の島の魅力を見つけることが出来ました。これから、この魅力を多くの人に発信・共有していきたいです。
クリエイター チーム 2年 <b>高松 万葉</b>	初めてこのチームに参加して、知らなかった小豆島の魅力を知ることが出来ました。これからも写真や動画などを作り、たくさんの人に小豆島の魅力を知ってもらいたいです。
クリエイター チーム 2年 <b>城 愛理</b>	去年と同じクリエイターチームに入りました。小豆島や学校の魅力が伝わるようにチームメンバーと協力して頑張りました。小豆島のいいところが世界中に広がっていくのが楽しみです！
クリエイター チーム 2年 <b>岡田 波音</b>	初めてこのチームに参加して、さまざまな視点から小豆島を知ることが出来ました。これからもインスタグラムや動画作りなど、色々な方法で小豆島の魅力をたくさんの人に伝えたいです。
クリエイター チーム 2年 <b>濱本 侑那</b>	このチームに参加して、小豆島のよさや魅力をより深く知ることができました。小豆島の海から見える夕日の写真や学校の行事の写真を使ってたくさんの人たちにシェアしていき、小豆島のことを知ってもらいたいです。
クリエイター チーム 2年 <b>岡本 優莉</b>	このチームに参加して小豆島の魅力を沢山見つけることができました。小豆島の魅力をSNS等を通して、より多くの方々に発信し、たくさんの方を癒せるような投稿をしていきたいと思いました。
クリエイター チーム 2年 <b>藤原 若菜</b>	このチームに参加して小豆島の様々なことを知ることができ、より良い魅力を感じることができました。小豆島の魅力や自分達もまだ知らない部分などを見つけて、色々な方に知ってもらえるように頑張りたいです。
クリエイター チーム 2年 <b>鎌田 智明</b>	おさんぽピンゴの制作、クリエイターチームの活動を通して、小豆島や高校の様々な魅力を知ることができました。身近な場所にもまだ知らない魅力がたくさんあることを学びました。
生き方探究 チーム 2年 <b>宮宇地 由記奈</b>	このチームに参加して、自分の進む道を決めるきっかけになりました。はじめてインタビューをしてみて、相手から聞いた話を自分の言葉にする難しさを感じました。
生き方探究 チーム 2年 <b>長谷川 絢巳</b>	昨年とは違うチームで活動をして、いろんな方向から小豆島を見ることができました。とても良い経験をさせていただき、この経験をこれからの人生に生かしていきたいです。
生き方探究 チーム 2年 <b>九星 心優</b>	島の未来プロジェクトを通して沢山のひとと関わることができ、多種多様な考え方がある事を知ることが出来ました。これからも沢山のひととの関わりを大切にしていきたいです。
生き方探究 チーム 2年 <b>炭山 明伽</b>	今年は、新しくできた生き方探究チームでいろんな人の生き方を知ることができました。これから自分の道を決める上で皆さんのお話を参考にしていきたいです。

島の魅力・産業 チーム 2年 <b>三木 希望</b>	前回と同じ島の魅力・産業チームに入り自分が思うきれいな風景を写真で伝えることが出来ました。きれいな風景を見に行った時に魅力を感じることができ島をより好きになりました。
島の魅力・産業 チーム 2年 <b>堀川 怜聖</b>	ボルダリング体験を通して、ボルダリングのおもしろさだけでなく、自分の好きな事をやり直し、続ける事の大切さを学ぶことができました。これから、どんな道に進むか決まっていますが、好きな事をできるだけ大事にし、やり続けたいです！
島の魅力・産業 チーム 2年 <b>佐伯 貴弥</b>	今回のボルダリング体験で自分の不可能を可能にする工夫や考え方を学びました。これから先自分と戦うことがあるかと思いますが上手いこと打ち勝てるようにしたいです。
島の魅力・産業 チーム 2年 <b>長濱 ほまれ</b>	島の魅力・産業チームに参加して、今まで島で過ごすなかでしていなかった体験をすることが出来ました。これからも体験したことをより多くの人に知ってもらえるようにしたいです。
島の魅力・産業 チーム 2年 <b>大空 美優香</b>	今まで島に住んでいながら気付いていなかった島の魅力を知ることが出来て良かったです。これからも島の魅力をたくさんの人に伝えていきたいです。
島の魅力・産業 チーム 2年 <b>藤田 実優</b>	今までずっと小豆島で暮らして来たけれど、小豆島にはまだまだ自分の知らない所がたくさんあることが分かりました。これからも小豆島のあまり知られていない所をたくさんの人に伝えていきたいです。
島の魅力・産業 チーム 2年 <b>林 蔵人</b>	このチームに参加して、小豆島のいろいろな場所に行ったり、たくさんの人と関わる事で、初めて体験した事や知った事がありました、しまみらを通してたくさんの人に知ってもらいたいです。
島の魅力・産業 チーム 2年 <b>平林 侑奈</b>	初めて参加し、自分の知らないスポットの風景を沢山知ることが出来ました。もっと小豆島の事について深く知ろうと思うきっかけにもなりました。
島の魅力・産業 チーム 2年 <b>石井 詩乃</b>	私はしまのみらいプロジェクトを通して、自分が知らなかった小豆島の絶景スポットを見つけることができました。小豆島にはあまり知られていない隠れ絶景スポットがたくさんあるので、これからもこの活動を通して発信していきたいです。
島の魅力・産業 チーム 2年 <b>伊藤 義朗</b>	このチームに参加して、今まで気づくことが出来なかった島の魅力に気づくことが出来ました。島の魅力をもっとたくさんの人に知ってもらいたいです。

香川県立 小豆島中央高等学校 教諭 <b>池本 健志朗</b>	教室の中だけが学びの場じゃないと、つくづく思いました。この活動が、自然に囲まれる小豆島の魅力を見つめ直すきっかけとして島中を巻き込めればいいな…と心から思います。
香川県立 小豆島中央高等学校 教諭 <b>高橋 紗弥</b>	「今日はしまみら!」と声をかけ合って教室を出ていくメンバーたち。島の魅力に気づき、楽しそうに活動している姿にエネルギーをもらいました。ありがとうございました。
香川県立 小豆島中央高等学校 教諭 <b>酒井 将年</b>	小豆島の魅力発見やPRについて、楽しくまじめに真剣に探究している高校生と大人のチームが最高です。
しまのみらい プロジェクト 会長(株式会社DaRETO) <b>城石 果純</b>	しまいろ Vol.6を発刊できたこと、関係いただいた皆さまにお礼申し上げます。参加生徒&関わっていただいた大人も最多更新◎しまみら1期生は就職の年でね…みんな元気かな?
しまのみらい プロジェクト (NPO法人トイエ) <b>大塚 一步</b>	今年度は外部のクリエイターの皆様に加わっていただき、刺激の多い活動でした。“しまみら”を通じて、より視野を広げ、未来に向かって羽ばたいてくれることを願っています!
しまのみらい プロジェクト (社会福祉法人サンシャイン会) <b>川西 剛</b>	クリエイターチームに関わって生徒さんたちとチャレンジできることがとても楽しい日々です。昨年はない今年のオリジナリティ溢れる、クリエイターチームの成果をぜひご覧ください。
しまのみらい プロジェクト (マルシマ印刷株式会社) <b>島 啓</b>	生徒の皆さん、先生方、スタッフの皆さん、1年間お疲れ様でした!限られた時間の中で体験した学びをこれからの活動に活かして頑張ってください。みんななら出来る!!!
しまのみらい プロジェクト (nerine) <b>堺井 美咲</b>	生き方探究チームに参加させていただきました。ご自身の未来、生き方について話すみなさんのキラキラした瞳が印象的で、たくさん刺激をいただきました!
しまのみらい プロジェクト (MYON YOGA) <b>西上 桃世</b>	今回初めて“しまみら”作成の裏側を覗くことが出来ました。今を生きる10代の子たちの感覚や考え方を知るきっかけになり私も学びの時間をいただきました!固定観念に捉われることなく自分達の生きたいように生きる選択をし続けていけるよう、エールを送ります!
小豆島青年会議所 <b>須藤 奈美</b>	『しまみら』の話は前から知っていたので、関わって嬉しかったです!高校生ならではの活動、島の未来を担う若者の等身大の頑張りを間近で見て、島の未来が一層楽しみになりました♪
土庄町地域おこし 協力隊 <b>森 亜紀子</b>	今年度からスタッフに加わり、魅力産業チームとボルダリング & ロッククライミングに初挑戦。高い壁を楽しみながら登りきるみんなからたくさんパワーをもらいました!

生き方探究 チーム 2年 <b>林 優菜</b>	私はまだ将来やりたいこと、夢などが決まっていません。ですが、色々な視点から皆さんの素敵なお話が聞けるきっかけとなり自分のタメになりました。
おさんぼビンゴ チーム 2年 <b>九畠 媛</b>	この活動を通して、繋がり大切さや様々な小豆島の魅力を知ることができました。沢山の経験と学びがあったので今後の人生に活かして行きたいと思います。
おさんぼビンゴ チーム 2年 <b>田中 まや</b>	このチームに参加して、島の魅力を改めて感じ、おさんぼビンゴを通じてたくさんの方に魅力を感じて欲しいです。営業は初めてのことばかりでとてもいい経験になりました。
おさんぼビンゴ チーム 1年 <b>藤田 夏菜子</b>	おさんぼビンゴチームに参加して、一つの商品を製作から販売まで行うことが初めての経験で、とてもいい経験になりました。島の事をより深く知れたのでもっと発信していきたいです。
おさんぼビンゴ チーム 1年 <b>山角 優羽奈</b>	おさんぼビンゴを作成していく中で、私は日常に潜む面白い発見を沢山することができました。また、実際に営業してみても緊張したけれど将来に役立つ良い経験をする事ができました。
おさんぼビンゴ チーム 1年 <b>植田 快晴</b>	おさんぼビンゴの販売をする中で、商品の魅力や自分の言葉を相手に伝える難しさ、また伝わり共感してくれた時の喜びなど、将来役に立つ経験をたくさんさせていただきました。
おさんぼビンゴ チーム 1年 <b>小野 智央</b>	私はおさんぼビンゴのアイコンの案を出し合っていた時に、自分が知らない場所やモノがたくさん出て、新しく知れて楽しかったです。営業も初めてで、とてもいい経験になりました。
おさんぼビンゴ チーム 1年 <b>岸田 優果</b>	おさんぼビンゴの製作、販売を通して島の魅力を再発見できました。売れるための方法を考えたり、お店からの要望に応えたりするのは初めてだったので、良い経験になりました。
おさんぼビンゴ チーム 1年 <b>今城 杏</b>	商品1つを販売するために商品本体だけでなく、什器や宣伝のためのポスターなども製作する必要があるという事を知りました。また、まだ知らない島の魅力があった事に驚きました。
おさんぼビンゴ チーム 1年 <b>山本 悠以</b>	この活動を通して、島の魅力にもう一度気付く事ができました。大人になるにつれて忘れることを思い出し、懐かしい気持ちになりました。これは手に取った貴方も同じです。ぜひ街中で見かけたら、買ってみてください。
おさんぼビンゴ チーム 1年 <b>咲村 美緒</b>	私はこの活動に参加してみて、自分の住んでいる地域のことを考える大切さや小豆島の魅力を見つけることができました。貴重な経験ができてとても嬉しく思います。
おさんぼビンゴ チーム 1年 <b>菊井 悠生</b>	この活動のおかげで、新たな小豆島の新たな魅力を発見し、良さを知ることができました。これからも、この素晴らしい小豆島を世界中に広めていきたいです。
香川県立 小豆島中央高等学校 校長 <b>山本 主税</b>	これまで、各地で大好評を博している「しまいろ06号」の刊行、おめでとうございます!われらのこの島のどんな魅力を皆さんが発見したのか、とても楽しみです。がんばりに感謝!
香川県立 小豆島中央高等学校 教頭 <b>野崎 隆亨</b>	しまのみらいプロジェクトも数えて6回目。規模も認知度もどんどん大きくなり、3回目から関わらせていただいた者として嬉しく思います。しまのみらいは明るい!
香川県立 小豆島中央高等学校 主幹教諭 <b>公文 洋</b>	島のこと知った気になっていた自分に反省…まだまだこの島には宝物がいっぱい。魅力の発掘活動はこれからも続く!この活動に参加する高校生もおおきな宝物です。



## しまの未来プロジェクト：活動趣旨

本活動は、教育、部活動に合わせて第3の価値として、高校生が主体となり、自ら考え、人・地域を巻き込みながら行動し、高校を卒業する前に小豆地域の魅力や地域とのつながりを大切にすることで、進学または就職後の進路に故郷である「小豆島」を選択肢として残してもらうきっかけになることを目的とする。

No.1



No.2

No.3



No.4

No.5



# しまいろ

06号

香川県立小豆島中央高等学校

発行日：2023年3月  
発行者：香川県立小豆島中央高等学校  
しまの未来プロジェクト  
印刷・製本 マルシマ印刷株式会社

